

健康アドバイス

No.239



立川総合病院 副院長
日本ヘルニア学会理事

蛭川 浩史

ヘルニア術後合併症 〜再発と慢性疼痛について〜

ヘルニア術後の再発率は日本内視鏡外科学会のアンケート調査では、メッシュを使わないと5%、

メッシュを使用した鼠径部切開法は約1〜9%、腹腔鏡手術は約1〜2%と報告されています。立川総合病院では、0.5〜0.8%とそれより低率です。

メッシュ治療後の再発は、メッシュのずれや小さすぎるメッシュの使用が原因のことが多いとされています。鼠径部脂肪腫（脂肪の塊）が再発と同じように膨らむこともあります。腹腔鏡を使い、お腹の中から再発部位を確認して手術する場合があります。

他に合併症として問題になっているのは長く続く痛みです。術後の痛みは、普通は1週間くらいすると良くなりますが、数カ月しても良く

ならないとき慢性的な痛みと診断されます。違和感程度のものから、ビリビリした痛み、歩けないほどの痛みなどさまざまです。股間や足など鼠径部とは関係ないところまで痛むこともあります。

メッシュを使用した鼠径ヘルニア術後、15〜53%に見られると報告されていますが、痛みの程度の評価が難しく、頻度にはばらつきが大きいのも事実です。2大原因として、メッシュによる圧迫か、メッシュによる鼠径部に分布する神経（図1）の神経障害があげられます。腰椎や内臓の疾患で痛みが出ることもあるので、それをちゃんと診断することが大切です。

メッシュが原因であれば大体は、鎮痛薬やブロック注射などで良くなります。緩和しない場合は手術を考えます。メッシュによる圧迫が原因であればメッシュを取り除くことで良くなるのですが、メッシュによる神経障

害が原因の場合は、痛みの原因となった神経を切除する治療が行われます。当然股間や足の一部の感覚がなくなります。欧米ではそれでも数パーセントの方は良くならないとされていて、痛みは複雑だなと感じます。

鼠径部や手術の傷の膨らみが気になるとき、ヘルニア手術後の再発や痛みが気になるときなど、困りの場合は、ぜひ専門医に相談ください。

【図1】

